

評価対象年度	平成 25 年度
1次評価日（主幹等）	26年3月31日
2次評価日（課長等）	26年3月31日

# 事務事業評価表（公共施設）

1 事業名	子育て支援館管理事業		コード	51107		
2 担当部課	部等	健康福祉部	課等	子ども課（こどものくに）	作成者	伊藤 恵
3 事業概要	目的体系	基本目標	ともに支えあい、健やかに暮らせるまち			
		政 策	子育て支援	施 策	子育て支援の充実	
		予算科目	地域子育て支援センター事業費	業務委託	なし（直営）	
		実施義務	あり（義務的・標準的事業）	国県補助	あり	
		設置条例	岡谷市イルフプラザ条例			

## ●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
施設の概要（簡潔に）	子育て中の人を支援するため、利用者のニーズに応えながら事業を実施するとともに、地域子育て拠点として、地域の子育て力を高めるよう支援する。また、利用者に安全に安心して過ごしてもらえるよう、施設の適切な維持管理を行う。		
目的	対象者	0～3歳の就園前の子どもとその保護者 （ただし、兄弟がいる場合は就学前であれば一緒に入館できる）	
	意 図	子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場を提供できる場所になるように事業展開していく。	

5 施設の管理運営状況			
指定管理者	25年度指定管理料		円
施設における通常業務	①子育て支援館管理・運営 ②子育て相談 ③情報の収集・提供 ④子育て講座に関する計画・実施 ⑤地域の子育て支援、育児サークルの育成		
事業の実施内容	(25年度に施設で行った運営事業・自主事業など) ①遊びの広場で、毎日親子体操やふれあい遊び、読み聞かせをする。 ②製作遊びやリズム遊び、ベビーマッサージを定期的に行い、ミニコンサートやクリスマス会等季節の行事を行った。 ③絵本、リトミック、食事、乳児、お父さん、玩具作り、ふれあい等の子育て講座を開催した。 ④子育て相談を行った。 ⑤ホームページや新聞でのPR、お便りの発行、情報コーナーによる情報提供を行った。 ⑥育児談話室の維持・管理をし、育児サークルの支援や、地区サークルへの訪問講習等、地域の子育て支援を行った。		
前年度の課題への対応	少子化等に伴い利用者数が減少傾向ではあるが、事業内容については利用者のニーズに応えられるよう心がけながら講座等を開催した。 こどものくにの職員が、地域での親子の集い等に積極的に参加し、地域団体と連携して子育て支援を行うことができた。 孤立家庭についてへの働きかけとして、地域子育て支援センターの保育士と子ども課の保健師が家庭訪問し、こどものくにやぱんだぐみ等に出向いてもらえるような取り組みを行った。		

6 施設の利用状況	*②・③はどちらかの欄に記入			
区 分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 施設稼働率	100.0%	100.0%	100.0%	
年間開設日数（日）	348	347	346	346
1日の開設時間（時間）	8	8	8	8
年間利用可能時間（時間）	2,784	2,776	2,768	2,768
年間利用実績（時間）	2,784	2,776	2,768	
② 年間利用者数（人）	0	0	0	0
有料利用者数				
無料利用者数				
減免措置者数				
③ 年間利用件数（件）	18,981	16,830	16,798	16,800
有料利用件数	0	0	0	
無料利用件数	18,981	16,830	16,798	16,800
減免措置件数				
④ 1日あたり利用者数、件数	54.5	48.5	48.5	48.6
⑤ 施設利用状況の説明				

## 7 コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	11,600,790	16,876,147	16,992,045	16,825,760
経常経費	11,342,459	16,816,733	16,893,045	16,825,760
臨時的経費	258,331	59,414	99,000	0
* 臨時的経費の説明	こどものくにお昼寝コーナーの畳の入れ替え			

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
② 人件費	9,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
正規職員の人数(人)	1.15	0.15	0.15	0.15
③ 合計コスト(①+②)	20,800,790	18,076,147	18,192,045	18,025,760
前年度比		86.9%	100.6%	99.1%
財源内訳				
一般財源	3,521,990	13,719,947	14,549,245	13,151,760
特定財源	17,278,800	4,356,200	3,642,800	4,874,000
* 特定財源の説明	H24年度：子育て支援交付金、H25年度：安心こども基金 H26年度：保育緊急確保事業補助金 カード実費徴収金			
④ 施設使用料年間収入額	0	0	0	0
⑤ 年間減免措置額	0	0	0	0
⑥ 受益者負担割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
⑦ 活動一単位あたりコスト	1,082	1,071	1,077	
前年度比		98.9%	100.6%	
⑧ コストに関する補足説明				

## ●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価	* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。	妥当性	標準
評価項目		はい	いいえ
①	現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
②	民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。		0
③	民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④	国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤	この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価	* 有効性=施設の利用状況(項目6/住民の満足度)は向上しているか。	有効性	標準
評価項目		はい	いいえ
①	この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
②	社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。	1	
③	この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④	施設の利用者が増加した。	1	
	1日あたり利用者数、件数 前年度比	100.1%	
⑤	施設使用料収入が増加した。		0
	施設使用料年間収入額 前年度比	0.0%	

## ●改善の内容(ACTION)

10 具体的な課題と改善	
課題	(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること) ・ 地域の子育て支援団体との協働による子育て支援をどう進めていくか。 ・ 孤立している家庭への働きかけ
改善方法	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容) ・ 地域団体と懇談を行い、地域と協働で地域に根ざした子育て支援をどう進めたいのか検討する。 ・ 孤立家庭への対応については、保健師と保育士による家庭訪問を継続的に行っていく。
改善開始時期	平成26年4月～

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	---	---

13 大規模修繕の予定

	予定事業費	円	予定時期	
内容				